

大学業務統合システム クラウドサービスに係る仕様書

No.	要求仕様
1	大学業務統合システム（以降、「本システム」という。）はクラウドサービスとし、SaaSで提供すること。
2	本システムは、学内にサーバを設置することなくネットワークを介して利用できること。
3	本システムのサーバは日本国内に設置されていること。
4	SINETやIPsecVPN等のセキュアな通信により、学内の端末と通信可能であること。
5	本システムのサーバの設定等によりアクセス制限を行い、セキュアな通信で、学内においてのみ本システムの基幹業務システムを利用できること。
6	基幹業務システム及びサービス業務システムを提供するサーバは2台以上で負荷分散し、また監視、バックアップを行える構成とすること。
7	Office365をメールサーバとし、本システムからの学生や教職員へのメール送信が可能であること。
8	Web系のサーバにsslサーバ証明書を導入すること。
9	サービス提供時間は、原則24時間365日とし、あらかじめ計画された停止時間を除き、月間稼働率が99%以上のシステム構成であること。
10	本学とのデータ転送(上り・下り)において、転送データ量に依存した課金体系でないこと。
11	サーバ等のセキュリティパッチの適用、メジャーを含むOS・ミドルウェアのバージョンアップが定期的になされること。
12	定期的なパッケージソフトウェアのバージョンアップ及びリビジョンアップ等により、費用が別途発生することなく機能追加や強化がなされること。
13	バックアップ/リストアを行う機能を有し、各サーバのバックアップは自動で実行し、リストアは業者により対応すること。
14	バックアップデータを1ヶ月程度保管できること。
15	取得したバックアップデータは、データセンター内と、BCP対策として国内にある別のデータセンターにも格納すること。
16	バックアップを実行する際、アプリケーションの停止を行う必要がないこと。
17	バックアップは原則夜間に実施し、翌日業務開始時間までにバックアップ処理が完了すること。
18	リストアの際は、任意の世代のバックアップデータから復元することができること。また、任意のファイル単位での復元も可能なこと。
19	システムデータのバックアップ機能を実装すること。また、障害発生時にはバックアップを使用し速やかに復元可能なこと。
20	ユーザデータのバックアップ機能を実装すること。また、障害発生時には直近の夜間バックアップ取得時まで復元可能なこと。
21	システム監視により異常を早期に検知できる仕組みをもつこと。

No.	要求仕様
22	障害が発生した場合、速やかに障害対応可能な体制とすること。
23	システム稼働後、バグ等発見された場合、速やかに対応すること。
24	緊急時には受注業者や協力会社等からリモートアクセスでの対応が可能なこと。
25	ハードディスク容量は運用中に増加できること。
26	ハードウェア・OS・ミドルウェアに起因するシステムの追加等の費用が別途発生しないこと。
27	信頼性のあるデータセンターを利用すること。（例えば、米国データセンター業界団体の規定するTierIII相当以上のサービスレベルを備えている等）
28	<p>サービスを提供するデータセンターまたは組織などは品質、安全性、信頼性に係る認定を取得していること。</p> <p>※当該認定は、例えば、以下などを指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ISO9001:品質マネジメントシステム ・ ISO14001:環境マネジメントシステム ・ ISO20000:ITサービスマネジメントシステム ・ ISO27001:情報セキュリティマネジメント ・ ISO27017:クラウドセキュリティ ・ プライバシーマーク:個人情報保護 ・ ISMAP:政府情報システムのためのセキュリティ評価制度
29	準拠法は日本の法律であること。また、管轄裁判所は日本国内の裁判所であること。